BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート

No. 411
SENDAI KEIZAI DOYUKAI
2021.12.20

［特集］

テレビ局のイメージを一新した地域に開かれ未来につながるkhbの新社屋

【巻頭言】

内と外の2つの「壁」まず発言、そして発信

株式会社東日本放送　代表取締役社長／佐藤 吉雄

明日を考え未来を語る

「“The Greenest City” SENDAI」を目指して
～ソーシャル×デジタルで描く仙台・東北の未来～

「渋沢栄一の『論語と算盤』で未来を拓く」
～これからの日本の繁栄する社会と企業経営～

KEIZAI DOYUKAI
仙台経済同友会
Sendai Association of Corporate Executives

【巻頭言】

株式会社東日本放送
代表取締役社長
佐藤 吉雄
Sato Yoshio

内と外の2つの「壁」
まず発言、そして発信

仙台には、内側と外側に「壁」がある。今年度、仙台経済同友会の広報戦略委員長に就任して、その思いを強くしています。地域の将来を考えるとき、まずこの壁を崩さなければ。

塩竈に生まれた私は、東北大を出て朝日新聞の記者になり、2016年に36年ぶりに故郷に戻りました。放送局の経営者として内外の様々な会議、会合に出席しています。驚いたのは、発言や質問をする人がとても少ないことです。会議によっては、主催者が報告するだけで、質疑応答を前提としていないんじゃないかと思うこともありました。

表でものを言わない。議論がない。これが内側の壁です。

人生の半分以上を新聞社にいて、日々、議論してきました。そもそも取材は質問をしないと成り立ちません。そういう職業柄もあるかもしれませんが、とにかく黙っていられないので、私はほぼ必ず質問したり、考えを述べたりしています。ちょっと変わった人だと思われているかもしれません。

「郷に入っては郷に従え」といいますが、ここは私の郷里のはずです。高校、大学時代にみんなが黙っていた記憶もありません。それがなぜ? 一種の同調圧力のようなものかもしれませんが、理由を詮索するより、まず変わらなければ、変えるにはどうすればいいかと考えています。

東京一極集中の中、私たちは都市間競争のただ中にいます。この競争には地域の魅力の発信が先決です。それはコンサルが見つけてくれるのではなく、地元を最もよく知っている自分たちが、議論を重ねて見出すしかありません。一人の「気づき」が大切なことの発見につながります。ものを言わないと何も始まりません。会社の経営も同じでしょう。

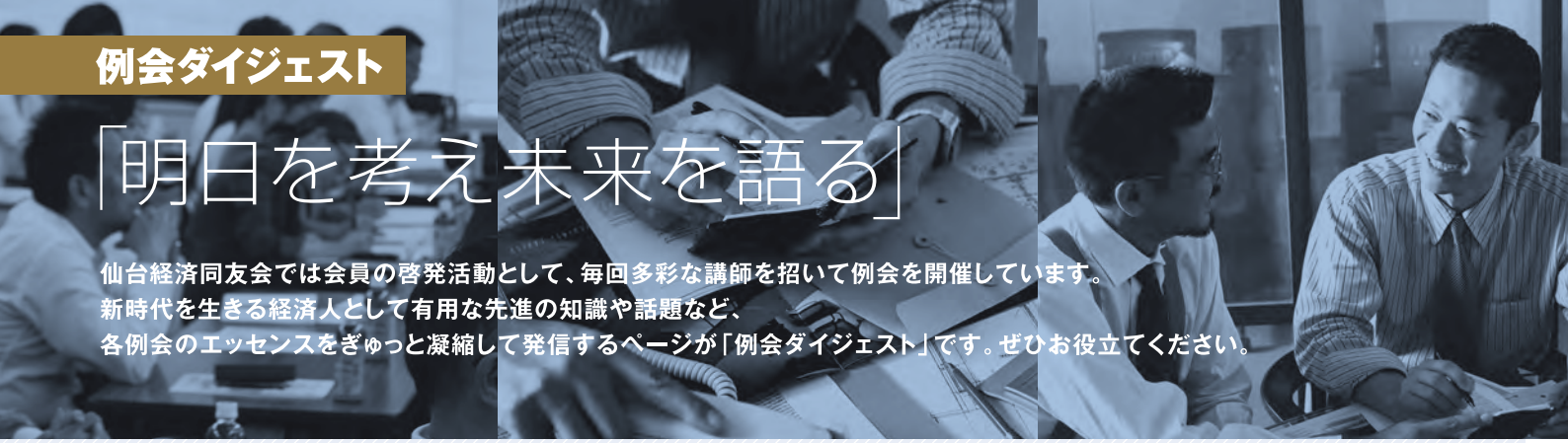
もう一つの外側の壁とは、外部への情報発信力の弱さです。内側でものを言わないことに通じているのかもしれませんが、地域としての自己PRが苦手です。奥ゆかしさ自体は美点ではありますが、競争力をつけてはくれません。ただものを言うだけではなく、時にずけずけと、かつスマートに伝えなければなりません。情報発信は私たちマスメディアの機能そのものですので、私の本業の課題でもあります。

ただ、仙台のローカルメディアは、大震災で否応なく鍛えられました。同規模の都市と比較しても、ニュースの発信力で勝るとも劣ることはありません。東京に最も近い大都市なので取り上げられやすいという利点もあります。私たちを上手に使ってください。内側の壁は経済同友会にはほとんどありません。毎月の幹事会での議論は年々、活発さを増しています。

震災復興に全力を挙げた10年余の間にライバルは先を走っています。福岡は規制緩和で新しい街づくりを進め、北海道はいち早くインバウンドを呼び込みました。でも、キャッチアップできないわけではない。福岡にならって同友会に「仙台ビッグバン委員会」を設置したのは、その号砲でもあります。

変わろうと思わなければ何も変わりません。なろうと思わないと何にもなれません。

「寡黙な東北人」というステレオタイプを脱し、「やかましくて粘り強い」仙台人を目指しませんか?



例会ダイジェスト

「明日を考え未来を語る」

仙台経済同友会では会員の啓発活動として、毎回多彩な講師を招いて例会を開催しています。
新時代を生きる経済人として有用な先進の知識や話題など、
各例会のエッセンスをぎゅっと凝縮して発信するページが「例会ダイジェスト」です。ぜひお役立てください。

2021年10月、11月の月例会では、下記の講師にご登壇いただきました。講演内容（抄録）を仙台経済同友会のホームページに掲載しております。

10月例会

「“The Greenest City” SENDAI」を目指して
～ソーシャル×デジタルで描く仙台・東北の未来～

株式会社zero to one 代表取締役CEO　**竹川 隆司氏**

東日本大震災を契機に、社会課題・地域課題が深刻化を増す東北で、その解決に向けた取り組みが盛んになり、多くの起業家が生まれています。そんな中、竹川隆司氏は社会起業家として、また、社会起業家の育成・支援者として、ソーシャルを目的に、デジタルを手段にさまざまな社会課題の解決であるソーシャルイノベーションにチャレンジ。そして、「東北は課題先進地であるからこそ、ここでしか学べないこと、取り組むべきことがたくさんあります」と東北の可能性を強く訴えます。

◉講師紹介

株式会社zero to one 代表取締役CEO

竹川 隆司氏

国際基督教大学卒業後、野村證券株式会社に勤務。30歳で独立してAsahi International.Inc.（ニューヨーク）などを設立。教育テクノロジー分野でグローバルに事業を展開。帰国後は東北の復興支援活動に参画。「東北風土マラソン＆フェスティバル」の企画・運営に携わる。また、カタールフレンド基金の支援のもと東北での起業家育成・支援プロジェクト「INTILAQ」を主導、仙台市にイノベーションセンターを設立。2016年同センターに「zero to one」を創業し、人工知能など先端IT人材育成のための教育教材の開発、提供を推進中。仙台市総合計画審議会委員（～2021年3月）、東北大学特任准教授（客員）、一般社団法人AIビジネス推進コンソーシアム理事などを務める。2006年ハーバード大学経営学修士（MBA）。

11月例会

「渋沢栄一の『論語と算盤』で未来を拓く」
～これからの日本の繁栄する社会と企業経営～

シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役　**渋澤 健氏**

NHKの大河ドラマの主人公として、新一万円札の顔として注目される渋沢栄一。日本資本主義の父と称される渋沢は、幕末から明治、大正、昭和へと、激変する時代の流れに翻弄されながらも、現代日本の経済制度の確立に通じる多くの功績を残しています。そんな渋沢栄一の子孫にあたる渋澤健氏は、「渋沢は金銭的なものは何も残してくれなかったけれど、会社経営の支えになる多くの財産（言葉）を残してくれた」と話します。今回は、そんな渋沢栄一の言葉を通じて、私たちが直面している大転換期の乗り越え方を学びます。

◉講師紹介

シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役

渋澤 健氏

1961年神奈川県逗子市生まれ。父の転勤で渡米。1983年テキサス大学化学工学部卒業。1987年UCLA大学にてMBAを取得。米系投資銀行で外債, 国債、為替、株式およびデリバティブのマーケット業務に携わり、1996年に米大手ヘッジファンドに入社。2001年に独立し、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業。代表取締役に就任。2008年にコモンズ投信株式会社を創業し、会長に就任。経済同友会幹事およびアフリカ開発支援戦略PT副委員長。UNDP（国連開発計画）SDG Impact Steering Group 委員。東京大学基金シニアアドバイザー等。著書多数。

［特 集］
新社屋拝見!

テレビ局のイメージを一新した 地域に開かれ未来につながるkhb

1975年開局の（株）東日本放送は、2021年9月に青葉区双葉ヶ丘より太白区あすと長町に社屋を移転しました。従来のテレビ局とは全く違う斬新な発想による新社屋とは?

「あすとつながるミテケロ5ch」
親しみやすくて、頼りになる、私の街のテレビ局を目指して

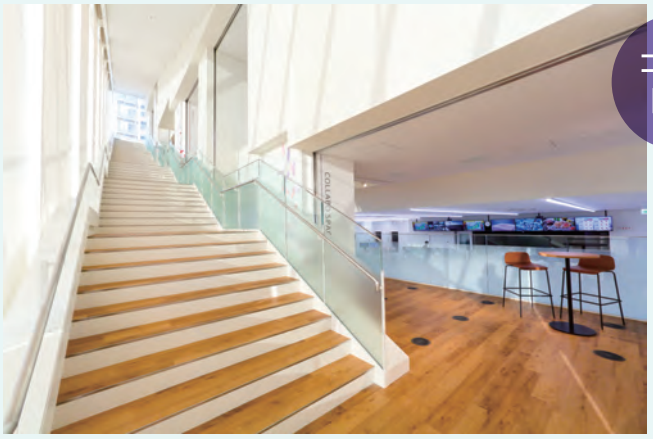
JR長町駅、地下鉄長町駅から徒歩5分の場所に建つ、東日本放送の新社屋。建物前面に斜めに張り出した大きなガラス張りの階段がひときわ斬新な建物です。

放送局といえばこれまで、セキュリティが厳重で、局の関係者やタレントさんなど、特別な人以外は立ち入れないイメージがありました。しかし新生khbが目指すのは、「地域に開かれたテレビ局」。そのコンセプトどおり、新社屋には一般の人を招き入れるさまざまな仕掛けがありました。

1階エントランスは、だれでも自由に入れるオープンスペースになっていて、カフェやショップ、ホールなどがあります。中でも東北唯一の最新型エスプレッソマシンを備えた「ぐりりカフェ」は大人気です。あすと長町エリアは近年の開発が目覚ましく、若いファミリー世代を含め人口が急増している地域です。そんな場所柄もあって、お子さん連れの地域の方がお茶を飲みに立ち寄ることも多いとか。「ぐりりホール」は公開収録に使われるだけでなく、一般にも貸し出されています。活用しやすい料金設定とのことなので、ピアノの発表会や合唱コンクール、演劇など、今後はさまざまなイベントに利用されることでしょう。

2階は報道・番組制作、3階はビジネス・技術部門、4階は管理部門やリフレッシュスペースが置かれています。各フロアをつなぐのが、この建物の最大の特徴「コラボ階段」です。ドアや壁で区切ることなく、階段を下りてくれば、各部門が何をやっているのか、全体が見渡せるという設計。「文字通り、職場の風通しが一層よくなって、全体的に明るくなりました。気が付くと社長が立っている、というサプライズの緊張感もあります」と新社屋プロジェクト室の清水紀夫さん。

社屋の前には「杜の広場公園」が広がり、向かいには「ゼビオアリーナ仙台」があります。今後はこのスペースをフル活用して大々的に野外イベントを行っていく予定だそうです。未来への希望をつなぐローカル局として新たな試みを進める東日本放送から、目が離せません。



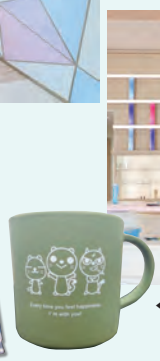
コラボ階段

◀2階から4階までの各フロアをつなぐコラボ階段は、フロア間のアクセスをスムーズにする機能以外に、コミュニケーションスペースを配置して社員のミーティングスペースも兼ねています

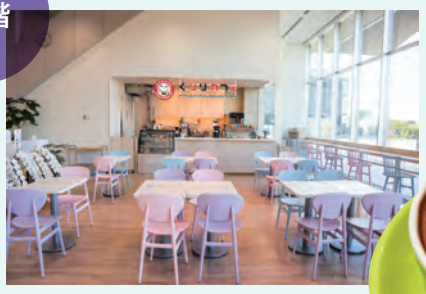
住所／仙台市太白区あすと長町1丁目3番15号
※JR長町駅・仙台市地下鉄南北線長町駅から徒歩約5分

◀1階のエントランスホールは、隣接する杜の広場公園に大きく開かれており、9面マルチモニター（180インチ）も設置

1 階



◀▲ショップでは、ドラえもんグッズや、ぐりりグッズを購入できる

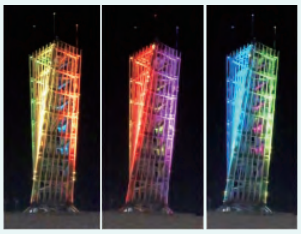


◀▼一般の人も利用可能な「ぐりりカフェ」。ぐりりのラテアートも人気！

の新社屋

◀東日本放送のマスコットキャラクター「ぐりり～ず」も移転に合わせてリニューアル。「ぐりり」(中央)、「うー」(左)、「ジョー」(右)

外観



▲鉄塔と斜めに張り出したガラスの階段。災害時に放送を継続できるよう、耐震安全性を最高レベルに設定。電源供給は、本線と予備線の2系統受電にして停電リスクを軽減し、さらに非常用発電機は2台設置。地下埋設タンクには 30000ℓの軽油を燃料として備蓄し、7日間の継続発電を可能にしている。また、近隣河川氾濫 の場合を想定し、1階床を1m 高床化に整備している。

◀アクティビティを引き込む「渦」と街にコンテンツを発信する「上昇気流」をイメージした「ツイスト」が特徴の鉄塔は、フルカラーの LED 照明で夜間はカラフルにライトアップ。あすと長町のランドマークとも言える社屋の象徴

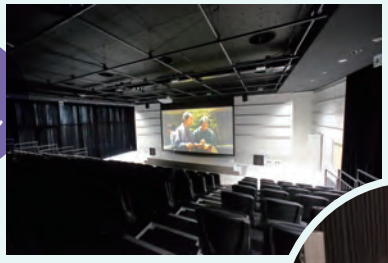
メインスタジオ

▲双葉ケ丘社屋の1.3倍の広さで、県内最大級の205インチ大型 LED モニタ(1.5メートル×5メートル)を設置。報道番組の映像制作に多彩な演出効果が可能に

報道制作フロア

◀ニュース専用スタジオを整備、ニュースサブをワンマンオペレーション対応にし、少人数での緊急報道に対応。フロアは報道デスクや情報端末を中心に配置し、生放送に有機的に対応できる設計

ぐりりホール



▲250インチのスクリーンと5.1チャンネルのサラウンド、178席の収納式観覧席を備えるぐりりホール。番組収録やイベントだけではなく、試写会・コンサートなどにも使用可能

屋上テラス

▶ウッドデッキのある屋上テラス。設置されたブランコは番組などでも使用される。ぐりりの顔にデザインされた植栽も見逃せない

スペシャルインタビュー

時代に求められる新しいローカル局とは

株式会社東日本放送
代表取締役社長 **佐藤 吉雄** さん

「地域に開かれたテレビ局」といっても、市の中心部ではない長町に、本当に人が集まってくれるだろうかと不安もありました。でも、それは杞憂でした。社屋見学会に1200人を超す方が来社されました。これまでは視聴者のみなさんと直接触れ合うことがなかったので、親子連れが楽しそうにアナウンサー体験などをしているのを見て、涙が出るほど感激しました。1階のホールとカフェには毎日たくさんの人が訪れ、社員の居場所がないほどです。あすと長町のポテンシャルを感じています。

以前はビジネス部門が別に拠点を構えていましたが、今は全社員が新社屋に集結しました。活発にコミュニケーションを取ることで新しい気づきや工夫が生まれることを期待しています。

コロナ情報への県民の渇望を受け、ニュース番組の時間にかかわらずリアルタイムでネット発信を続けたところ、1年で1億回ものアクセスがあり、正直驚きました。放送時間に縛られるテレビの弱点をネットで補った形です。インターネットとは競争というより、特色を生かしながら共存する道を探ります。番組の拡充、連動したリアルのイベント、それにネットでの情報発信や視聴者の交流。この3つを連動させて新しいローカルのテレビ局を創り、未来につなぎたいと思っています。

特集・次ページへつづく

あすと長町から始まる 新しいkhb

新社屋移転に合わせて 新たなCI（コーポレートアイデンティティ）を制定!

これまでのカラーを一新し、生まれ変わり挑戦し続けるポジティブな新生 khb を表現しました。

また、小文字の khb で、やわらかな印象やより親しみやすさが感じられるロゴになりました。

キャッチコピーは

あすとつながる
ミテケロ 5ch

あすへの希望をつなぐ放送局として、あすと長町から情報を発信していきます。

東日本放送の歴史

1975年10月1日	宮城県4番目の民放テレビ局として上杉二丁目に開局
1991年9月23日	本社・演奏所が青葉区双葉ヶ丘へ移転。音声多重放送開始
2000年	局のイメージキャラクターとして「ぐりり」を採用
2011年3月11日	東日本大震災発生。気仙沼支局、仙台空港待機中の取材ヘリが津波で被災
2016年	開局40周年記念事業として映画『殿、利息でござる!』を全国公開
2021年9月20日	太白区あすと長町の新社屋へ移転、放送開始
2021年10月1日	新社屋のグランドオープン 同時にロゴマークを小文字の「khb」に変更するなど、デザインとカラーを一新。ぐりりもリニューアル

※放送局の心臓部「マスター」と呼ばれる主調整室は約15年で更新が必要とされている。そのため、社屋移転は更新のタイミングに合わせて行われることが多い。1975年青葉区上杉に開局したkhbは1991年に同区双葉ケ丘に移転。それから30年後の2021年、太白区あすと長町へ移転した。

イベント情報!

khb東日本放送　新社屋ライトアップイベント
「khb アストノヒカリ 2021-2022」

あすと長町杜の広場公園につながる街路樹がイルミネーションに輝き、歩道に映し出されるヒカリとオトが次への空間へと導きます。

khb 社屋の壁面には、ダイナミックな映像と音響による心躍るプロジェクションマッピングを投影。

フルカラーの LED 照明でライトアップされた鉄塔も見逃せません。

期間中は、ぐりりホールや杜の広場での関連イベントも開催予定です。

期間／ 2021年12月1日㊌～2022年2月27日㊐
時間／ 17:05～21:05
会場／あすと長町杜の広場公園　周辺
及び khb 本社

問い合わせ／株式会社東日本放送　企画事業部
☎022-304-3055

新入会・交替会員紹介

会員総数 340名（2021年11月30日時点）

交　替（6名）

会員
横尾 努様
サッポロビール株式会社
東日本本部長

会員
松浦 健一様
新菱冷熱工業株式会社
東北支社長

会員
尾形 雄一郎様
株式会社 第一広告社
代表取締役

会員
寺島 道人様
三井不動産株式会社
東北支店長

会員
松本 貴宏様
三菱UFJモルガン・
スタンレー証券株式会社
仙台支店長

会員
笹川 稔郎様
東北発電工業株式会社
取締役社長

PICK UP BOOKS

今月の本棚

読書の愉しみは人それぞれですが、
日ごろはどんな本を読んでいますか？
自分では選ばない本の中に、
思わぬ気づきやヒントが見つかるかもしれません。

『 日本の道化師 』

著　者：大島 幹雄
出版社：平凡社
定　価：968円

白塗りメイクに派手な衣装で滑稽な芸をする人は、と聞かれると大抵の人は「ピエロ」と答えるはずだ。しかしピエロは日本特有の呼び方で、サーカス文化の本場であるヨーロッパ圏では「クラウン（道化師）」と呼ばれている。本書は道化師とはどのような職域の人たちで、日本でどのように受容されていったのかを紐解く一冊だ。

クラウンないしピエロはサーカスや大道芸という大衆娯楽と切っても切れない関係にある。あくまで劇場で直に観客と相対する芸ごとだというところが、本邦の「お笑い芸人」が映像メディアと切っても切れない関係にあることとの最大の違いだろう。「スターもいらないし、メジャーにならなくても、クラウンが必要なのは（中略）笑いの向こうに、喜びや希望を届けることにあるからだ。」と著者が語る意義が興味深い。　評者／中村いり

『 食べるギリシア人：古典文学グルメ紀行 』

著　者：丹下 和彦
出版社：岩波書店
定　価：792円

古代の英雄をうたった叙事詩の中に、主人公が食事を摂るシーンは殆ど描かれない。あるとしても宴席や、神や怪物に連なる「特別さ」を強調するため大食いが描かれていることが殆どだ。それら叙事詩と近代の物語では、読者に共感性を抱かせる部分が異なるためだろうし、同時代の人々にとって英雄が何を食していたかは語られずとも想像のつく、当たり前のことにすぎない。

しかし、遠く時間を隔てた現代に生きる身としては「アキレウスがトロイアに駐留していた十年間、晩ご飯はどうしていたんだ？」というのは全くの未知だ。肉か？魚か？野菜はどうだ。果物を食べる習慣は？

本書を読めば、その疑問も相当な所までが解消できる。広範な古典文学の知識を総動員しながら、古代人の飲食を詳らかにする過程は大変に刺激的だ。　評者／中村いり

ピックアップ瓦版

仙台のファンド、専門学校が新会社

クリエーター即戦力へ育成

東北の経済再生を支援する民間ファンド「ダッチャキャピタル」（仙台市）は、仙台市若林区で専門学校日本デザイナー芸術学院を運営する学校法人英智学園と共同で、新会社「ニチデLab（ラボ）」を設立した。同校学生ら若手クリエーターを実践的に育成し、即戦力として送り出すことで、東北企業のブランディングやプロモーション、アニメ・ゲーム産業の活性化に貢献する狙いだ。

東北各地から集まった学生がウェブデザインやゲーム制作などを学ぶ日本デザイナー芸術学院＝仙台市若林区

1978年創立の同校は漫画やイラスト、デザイン、ウェブ、写真、ゲーム制作などを学ぶ2年制で、宮城など東北出身者を中心に約200人が学ぶ。約8割が東北での就職を希望する一方、学んだスキルを生かせる専門職の新卒採用先は8割超が首都圏などに集中。希望職種以外に就くケースも少なくないという。

8日に若林区の同社で記者会見を開いたニチデLab代表取締役で英智学園の中村隆理事長は、「新卒でも早期に活躍できる人材を育成し、東北で活躍できるよう役割を果たしたい」と抱負を語った。

具体的には、新会社がウェブや動画・写真、イラスト・漫画、アニメ・ゲームといった制作業務を外部から受注し、学生と業務委託契約を結んで発注する。フリーランスも対象。学生らは学んだ技術を実際の仕事に生かしながらスキルアップを図り、報酬を得られる。

同社は東北の企業と積極的に連携し、受発注の拡大を図る。ITスクールなど一般向けの講師として派遣する場も準備する。出資額はダッチャキャピタル5000万円、英智学園160万円。設立は9月13日付。

同校の村上克巳校長は「東北各地から来る学生が実践的な教育の場で学び、地元に戻り貢献してくれれば地域の活力になる」と強調。ファンドの須佐尚康会長（東洋ワーク会長）は「せっかく学んでも、東北の小企業は即戦力以外を雇う力がない。東京から仕事を取り、地域で活躍するための会社になってほしい」と期待した。

ウェブやゲーム産業 人材流出 歯止めにも

学生 報酬得て技術向上

記者会見した中村代表取締役（左から2人目）、須佐会長（同3人目）ら

（出典：河北新報 2021年12月9日（木））

次号の特集のご案内

2021年もまもなく暮れようとしています。東京オリンピック・パラリンピックの開催、菅首相から岸田政権への移行、さらには大谷翔平の二刀流や将棋界の新星・藤井聡太竜王の活躍など、新型コロナが未だ新たな変異種の出現で先行き不透明な中でも、さまざまな出来事が起こっています。今号では、あすと長町に完成した新しいkhbについて特集しました。変化の激しい時代をどう生き抜くのか、2022年も仙台経済同友会が実り多い場であることを願っております。皆様、よいお年をお迎えください。

仙台経済同友会
BIMONTHLY REPORT
2021年12月号　No.411　令和3年12月20日発行

○発行人／小林英文　西井英正　○編集人／川嶋輝彦　○発行所／一般社団法人 仙台経済同友会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階
TEL／022-223-8555　FAX／022-262-2650　URL／http://sendai-doyukai.org
製作・印刷／今野印刷株式会社